

# いのち 生命のにぎわいとつながり

No.29

平成24年7月

干潟には、魚が育ち、カニや貝、ゴカイなど多くの生きものが生息しています。また、鳥類のエサ場や渡りの中継地となるなど、“生命(いのち)のゆりかご”ともいわれ、重要な生態系をつくっています。

東京湾に残された干潟の一つに三番瀬の干潟があり、県が行った三番瀬の海底地形測量調査では、3年前に比べ、水深が平均27cm深くなり、干潟の面積も46%に縮小したことがわかり、東日本大震災の影響で海底の地形が変化したと思われます。今後、県では鳥類などの調査を実施し、生態系への影響を把握していきます。

本号では、干潟の生きものから見た千葉県生物多様性について紹介するとともに、ベトナム国からの視察についても報告します。

夷隅川河口干潟

## 干潟の生きものから見た千葉県の生物多様性

高山 順子 千葉県生物多様性センター



コメツキガニ (写真：立川浩之)

### ● 干潟の生きもの

干潟は海と陸とが接する場所です。潮が満ちているときには海の底となり、潮が引いたときには陸地となる、砂や泥でできた平らな場所をいいます。干潟は、河川によって運ばれた砂泥や有機物が堆積することで形成されますが、その成り立ち方によって、海に面し

た前浜に堆積する前浜干潟、河口部分に堆積する河口干潟、入江奥部に形成される入江干潟、砂州などによって外界から遮られて形成される潟湖(せきこ)干潟、などに区分されます。

干潟は一見すると、ただ一面の泥ばかりで生きものの姿を見ることができないかもしれません。しかし、

## CONTENTS

1 干潟の生きものから見た千葉県の生物多様性	1
2 ベトナム国から視察がありました	3
3 千葉県の希少種 (サンバ)	3

干潟には、この特異な環境に適応したさまざまな生きものが暮らしています。

最も多い生活形態は、アサリやニホンスナモグリ、チゴガニなど、干潟の泥に潜って暮らすというものです。その他には、アラムシロガイやユビナガホンヤドカリなどのように干潟表面を生活の場とするもの、ケフサイソガニなどのように物陰に潜んでいるもの、シロスジフジツボなどのように杭や護岸に付着するもの、などが挙げられます。岩礁海岸などと比較すると、生息環境が単純なために生きものの種類数は多くはありませんが、干潟の生物の生産量は非常に高いことが知られています。

### ●生態系としての干潟

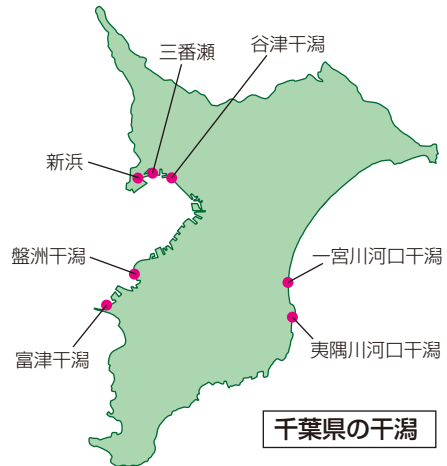
干潮時に姿を現す砂泥地のみを“干潟”として述べてきましたが、その成り立ちに必要な環境が周辺に存在します。まず、土砂や栄養分を運んでくる河川がなければなりません。干潟の陸側には潮の出入りのある湿地があり、ヨシなどをはじめとする特徴的な動植物相が発達し、反対に干潟の海側には浅海域が続き、ここでは干潟を稚仔魚の生育場として利用する魚類の往来が見られます。さらに、それぞれの環境に適した生きものを餌とする鳥類が、干潟を広範囲に利用するのです。このように、干潟を後背湿地から浅海域まで括げて眺めることで、“干潟生態系”という枠組みを捉えることができます。



昭和30年代の東京湾岸での貝採り  
(林 辰雄氏撮影、千葉県立中央博物館所蔵)

### ●これまでの千葉県の干潟

三方を海で囲まれている千葉県は、その西の海岸を東京湾と接しています。東京湾にはかつて広大な干潟が広がっており、貝類漁業や海苔養殖業などが盛んに行われていました。人々の日常の暮らしは、豊かな生きものを育む干潟と深いつながりを持っていたのです。しかし、江戸時代から小規模な埋立や干拓は行われていましたが、戦後になって大規模な埋立事業が次々と始まり、東京湾水面の2割に当たる約25,000haの干潟が埋め立てられました。



### ●現在の千葉県の干潟

現在でも少なくはなりませんが、県内には何か所かの干潟が残され、その場所を利用するたくさんの生きものたちを育てています。東京湾内には、野鳥の飛来地として知られ保護されている「新浜（行徳鳥獣保護区）」や「谷津干潟」、東京湾奥の良質な漁場である浅瀬がほとんど埋め立てられた中、かろうじて残されている現在の「三番瀬」、東京湾干潟の原風景を今に伝える「盤洲干潟」や「富津干潟」などがあり、また、太平洋に面した外房地域には、潟湖干潟である「夷隅川河口干潟」や河口干潟の性質も併せ持つ「一宮川河口干潟」など、どれもそれぞれに個性のある干潟が残されています。このように、千葉県は、“干潟の多様性が高い地域”だと言えるでしょう。



盤洲干潟

### ●干潟の生きものを脅かすもの

千葉県の干潟生態系を脅かす要因のひとつとして、外来生物の侵入を挙げることができます。それらは、東京湾外から持ち込まれ放流されるアサリなど水産資源に伴う移入や、バラスト水や船体付着など船舶による移入などが原因であるとされており、その種類数も増加傾向にあることが指摘されています。もちろん、千葉県に残されている貴重な干潟をこれ以上埋め立てることなく大切に保全していくことが、最も大事なことです。その上で、想定のできない要因によって生態系に思わぬ変化を巻き起こすことがあるということを踏まえ、干潟の長期的なモニタリングを行っていくことが重要です。

## ベトナム国から視察がありました

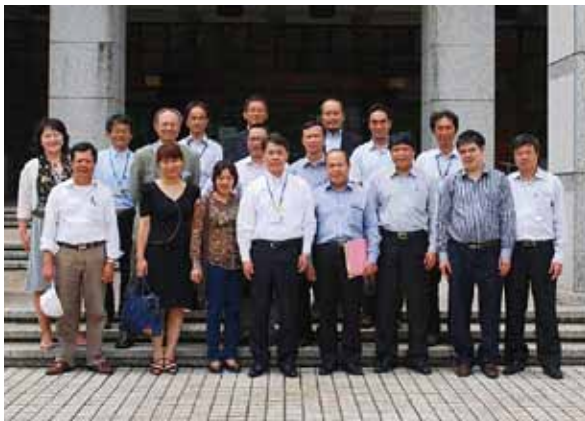
熊谷 宏尚 千葉県生物多様性センター

生物多様性センターでは、生物多様性ちば県戦略の策定や当センターの活動について、国、地方公共団体・議会、研究者などの視察をこれまで度々受け入れてきました。今回は、5月30日にベトナム国の天然資源環境省を始めとする関係省庁の視察がありました。

これは、ベトナム国が省庁間の連携のもとに、生物多様性に関するデータベースを開発するために、国際協力機構（JICA）プロジェクトの一環として行われたものです。日本において、環境省生物多様性センター、国立環境研究所、国立科学博物館などの視察とともに、地方公共団体の事例として当センターの視察が行われました。

グエン・テ・ドン天然資源環境省環境総局副局長を始めとする局長～所長8名の訪問を受け、当センターからは、センターの概要、生物多様性ちば県戦略の策定プロセス、生命のにぎわい調査団事業、生物多様性地理情報システムについて説明を行いました。

短時間ではありましたが、熱心に意見交換が行われ、改めて生物多様性の保全と持続可能な利用が、世界の共通課題であることを感じました。



ベトナム国からの視察

## 千葉県の希少種

サシバ (タカ科) 千葉県レッドデータブック 最重要保護生物 (A)



写真：印西市、2012年4月16日、中込 哲

「ピッキイー」・「ピッキイー」と、とても大きな声でサシバは鳴きます。春になると谷津田では、普通にこの声が聞かれました。

サシバは、中国北東部、ロシアの極東地域等で繁殖します。国内では主に夏鳥です。繁殖期が終わると東南アジアなどの越冬地に渡ります。国内でも南西諸島では、少数が越冬します。

現在、サシバの個体数は減少してしまい、千葉県レッドデータブックでは最重要保護生物 (A) とされています。

国内でも減少が著しく、環境省も絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定しています。

ほんの数年前までは、それほど少なくはなかったと思われます。

サシバは、カエル、ヘビ、トカゲなどの両生類・爬虫類を主に捕食しています。

水田に生息するカエル類は激減しています。幼虫がカエルに寄生すると考えられているカエルキンバエも、現在、千葉県では絶滅したと考えられています。ごく普通に生息していたカエルに依存している種は、サシバだけではないのです。

普通の環境であった谷津田の減少に伴い、多くの種が減ってしまうようです。

(千葉県立中央博物館 桑原和之)

お 知

ら せ

## 生物多様性 普及活動 パネルの貸出し



千葉県生物多様性センターでは、生物多様性の普及のためのパネルを作成し、県内で展示して下さる団体（企業・市町村・NPO等）を募集しています。  
パネルはセンターのウェブサイトにて紹介していますが、詳しくはセンターまでお問い合わせください。  
TEL : 043-265-3601  
FAX : 043-265-3615  
E mail : hogo10@mz.pref.chiba.lg.jp  
URL <http://www.bdcchiba.jp/index.html>

## 千葉県立中央博物館「企画展」

# シカとカモシカ

—日本の野生を生きる—



ニホンシカとニホンカモシカは日本の野生動物を代表する2大草食獣！

長年の研究成果をもとに、とっておきの実物標本、オリジナル映像・生態写真により、その野生にせまります。

世界のシカ・カモシカも参集。

日本の、世界の野生が目の前に！

◎期間 平成24年7月7日(土)～9月17日(月祝)  
9:00～16:30 (入館は16時まで)  
休館日: 7/9(月)、7/17(火)、  
9/3(月)、9/10(月)

◎問い合わせ 千葉県立中央博物館  
TEL: 043-265-3111

\*講演会・体験イベントなどが開催されます。千葉県立中央博物館のホームページをご覧ください。  
<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

※ 企画展「シカとカモシカ」の関連行事として、自然誌シンポジウム（主催：千葉県立中央博物館・共催：千葉県生物多様性センター）が開催されます。

### シンポジウム

#### 「どうする？房総のシカと生物多様性保全」

日時: 平成24年8月19日(日)  
10:30～15:30

場所: 千葉県立中央博物館 講堂

定員: 当日先着200名 参加無料(どなたでも参加できます)



生物多様性ちばニュースレター No.29 平成24年7月31日発行

編集・発行 千葉県環境生活部自然保護課 自然環境企画室 生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp/index.html>